

松帆銅鐸の特徴

- 7点もの銅鐸が一度に発見されたこと
- すべての銅鐸が古い型式だったこと
- 銅鐸に伴って舌（ぜつ：銅製で、銅鐸の中に吊り下げて音を鳴らすための棒）があったこと
- 銅鐸の吊り手や舌の頭部に、吊り下げるための紐やその痕跡が確認され、これまでは推定だった銅鐸と舌の使い方が明らかになったこと
- 同じ鋳型で作られた銅鐸が、島根県有加茂岩倉銅鐸や荒神谷銅鐸、南あわじ市の慶野中の御堂銅鐸にもあること
- 銅鐸や舌に付いていた植物片の分析から、約2,100～2,300年前に埋められたものであることがわかったこと



松帆銅鐸が国重要文化財指定へ

国の文化審議会が令和8年3月26日開催の同審議会において、松帆地区出土の横帯文銅鐸一口、袈裟帯文銅鐸六口を重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申しました。市では今後、展示会や講演会などを催し、「銅鐸のまち」のPRを強化していきます。

☎玉青館 36-2314



平成27年4月、市内の砂利加工会社が松帆地区で採取した砂山から銅鐸を発見しました。会社は、「市で活用を」との思いから、銅鐸に関する一切の権利を放棄し、本市に無償で譲渡されました。本市は、奈良文化財研究所に調査を依頼し、この銅鐸が当時の文化や技術を知る上で極めて貴重なものであることを確認しました。そして、この銅鐸を次世代へ継承していくために、国の重要文化財指定をめざす取り組みをしてきました。市の文化財に指定し、次いで兵庫県的重要文化財指定を受け、この度、国の文化審議会の審査を経て、国の重要文化財に指定されることが決定しました。

今後の予定【講座・講演】 ※詳細は、7月号以降の広報南あわじ等でお知らせします

- 松帆銅鐸重要文化財指定記念講座「淡路島の弥生時代」
日程 令和8年7月29日(水)、8月12日(水)、8月26日(水) 14:00～
場所 玉青館
- 松帆銅鐸重要文化財指定記念講演会
日時 令和8年9月5日(土) 13:00～15:40
場所 湊地区公民館
講師 和田晴吾氏(兵庫県立考古博物館名誉館長・松帆銅鐸調査研究委員会委員長)
横須賀倫達氏(文化庁主任調査官)

今後の予定【展示】

- 淡路島日本遺産認定10周年特別展
「国指定重要文化財 松帆銅鐸と地域の宝」
日時 令和8年6月13日(土)～9月23日(水・祝)
場所 玉青館